

会議議事録

事業名	令和6年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業 (3) 職業実践専門課程等の充実に向けた取組の推進①社会的評価の一層の向上のための共通基盤整備の推進
代表校	一般社団法人全国専門学校教育研究会

会議名	第4回事業推進委員会
開催日時	令和6年11月18日(月) 14:00~17:00
場所	リファレンス駅東ビル貸会議室
出席者	委員対面：五十部 昌克、林 宏治、谷 昌一、岡村 慎一、 沖 直彦、松田 義弘、鈴木 弘明、氏部 正 委員〇Ｌ：菊田 薫、稲永 由紀、富田 伸一郎 計11名 請負業者：飯塚 正成 計1名 オブザーバー：八木 信幸 計1名 合計13名
議題等	議題1：TEC 財団主催内部質保証人材育成講座受講者へのヒアリング結果報告（五十部） ・紹介いただいた4校の内、2校についてオンラインヒアリング調査実施した。 ・鹿児島医療技術専門学校 松木陽一先生 ・静岡理科大学(受講時：沼津情報ビジネス専門学校 坂部真彦先生 ・講座受講により役だった項目についての過不足はなかったが、(コロナ禍で)オンライン受講で十分な内容と、対面で学びたいとの指摘 ・知識習得はオンライン或いはオンデマンド形式で良いのではとの提案 ・演習の時間は増やして欲しい。研修時間との制約があればオンライン(オンデマンド)との併用や有効と思われる。 ・演習だけでなく、休憩時間での他の参加者との交流・情報交換は有用と思われる。 =====補足 ・研修終了後に他の参加者がどのように監査を行っているのかの意見交換を望む声があった。(谷) ・知識の部分は、オンラインで十分だと感じた。運用の部分は対面でしっかりと意見交換したい意見があった。(谷)

- ・内部室保障にどう取り組んでいくかについては試行錯誤をしている状態だと認識している。(沖)
- ・それぞれの地域において価値観が違うので各校とのに大きく差が出ていると感じている。(沖)

=====意見交換

- ・どのレイヤーの方に参加してもらって議論しておく必要がある。全く知識ゼロの人や中ぐらいい人、ある程度経験がある人、のどこをターゲットティングが必要。(林)
- ・まったく初任者では気が重い。あまりベテランではハードルが高い。この辺りで3年程度を視野に入れていた。(五十部)
- ・大学において内部質保証といった時に何を想定するかという話と、専門学校での内部質保証とでは想定されるものと若干ずれもあるかもしれない。担当者のプロフィールについてはとても重要なことと考える。レベルをいくつかに分けてどのレベルの担当に都のような情報が必要なのかを吟味する必要がある。(稲永)

議題2：Google フォームによる内部質保証体制に関するアンケート結果報告(集計結果) (八木)

- ・学生数別での集計結果は学生数別 600 名以上 300 から 559 名 150 から 299 名 150 名未満の4つの階層に分けて集計した。
- ・クロス集計としては、指定養成施設か否か、分野別、地域別、観光関係者評価委員等が入っているか否か等で6通りの集計を行った。
- ・中期計画を策定しているところが多いことが分かった。
- ・中期計画の企画は、5年間で終了後に再度5年計画を作成するパターンと5年計画を立てた翌年、2年後に5年計画を再度立て直すパターンがある。
- ・中期計画策定項目は、収支に関しては絶対項目。また、どこが策定するのかについては、学校規模が大きくなるにつれて、学校と法人の両面からの策定されている。
- ・募集や就職については、法人が作成するパターンが多かった。

○本件に関しては、グラフなどに間違いなどが見つかったため、次回委員会にて再度検討する。

議題3：訪問ヒアリング調査の状況報告および検討事項 (五十部)

① 11月13日(水)10時～ 中央動物専門学校(東京、田端駅)

調査者：沖先生、松本先生、八木先生、五十部

②11月15日(金)10時～ 修成建設専門学校(大阪、千船駅)

調査者：松田先生、八木先生、五十部

③11月15日(金)16時～ 静岡県東部総合美容専門学校(静岡、三島駅)

調査者：谷先生、鈴木先生、八木先生、五十部

④11月18日(月)10時30分～ 麻生外語観光&ブライダル専門学校(福岡、博多駅)

調査者：沖先生、谷先生、八木先生、五十部

⑤Y I C情報ビジネス専門学校 12月5日午前に訪問する。

・検討事項として ⑥大学と専門学校の両方を把握し、それぞれの機関における中期計画・実行上の違いを把握するために、6校目の調査を行うか。

・ヒアリングは、中期計画策定、学校関係者評価、内部質保証人材の3つの区分で実施した。

・中央動物の中期計画は、3か年計画を毎年策定する方法で実施していた。修正建設は聞き忘れた。その他の2校は、中期計画を毎年作り直す方法になっていた。

・中央動物の経営ビジョンは学校法人にて策定し、それぞれの学校が主体となって計画を策定していた。麻生塾は項目によっては学校法人と学校が区分されていた。残り2校は1学校法人1学校という学校ですが法人と学校にて項目ごとに検討する体制がとられていた。

・経営戦略の主体となっているのは、経営としては学校法人が関与し、教育目標は学校主体となっている。

・計画の改善については、改善が必要と感じたときに、その都度計画の見直しをしている。中期計画の評価というよりも1年度とに調整することが多く感じられた。

=====中期計画補足・意見交換

・追加質問のところがポイントだと考える。毎年見直しを行いリアルな修正が必要だと感じました。(松本)

・松本委員が言われていることと同意見。毎年の見直しが重要であるし現実的だと思った。(沖)

・修正建設は1法人1校だったので、経営戦略などは法人が作成し、それを学校が実行するという方法だった。学校が計画を立てる学校も見受けられたが、この場合、学校法人の役割が不明確でわかりにくい。ここをしっかりと議論しないとガイドラインの作成は難しいと感じている。(松田)

・中期計画については、ヒアリングをすればするほど様々な計画作成が行われているために、これをどのような形で表現するかは非常に悩ましい。(五十部)

- ・ 静岡の学校に伺った。中期計画と事業計画を明確に区分することは難しいと感じられた。麻生に関しては、事業計画に近いのかという感じでとらえている。こちらも中期計画と事業計画の区分を行うことが難しい。(谷)
- ・ 静岡の学校では、東京へのアクセスが良いために学生流出が問題視されていた。就職のところで3年目の離職率ばかりではなく1年後の李勝区立も加えることを対案された。理美容学校の特徴なのかもしれない。(鈴木)
- ・ 大学と専門学校を併設している学校に関する情報収集は、有効だと思われますか。例えば静岡理工科大学さんを再度訪問するというのはいかがでしょうか(五十部)
- ・ 静岡理工科大学グループは大学と専門学が明確に分けて運営していると聞いています。私としては、新潟グループさんか河原学園グループさんが良いのではないかと思います。(林)
- ・ 当校は3校を設置している。大学2校と専門職大学1校であり、法人は区分されている。また設置については、専門学校にいた方々によって作られたので、参考になるか不明である。(鈴木)
- ・ 専門学校と大学との中期計画の違いというのを明確化したいが、新潟グループさんは、少し異なるようですね。(五十部)
- ・ 穴吹学園は、高松の学校法人の中に専門職大学が入っている。香川と徳島と広島は別法人としている。経営については、広く法人が管轄しているが、専門職大学はやはり別物として取り扱っているのが実情である。当校のやり方は、まずはタスクフォースを立ち上げて、5, 6人で中期計画の骨子を作成する。これを理事長が承認する。この内容を各校にて計画を作成する方法です。(氏部)
- ・ タスクフォースはどこまで話し合われますか？(五十部)
- ・ 法人代表、就職、広報、事務局等が集まり、各項目について方針を立てることになる。皆様方の議論を聞いていると、誰が決めるのかとどこが計画を作るのかを区分して検討したほうがわかりやすいと感じている。(氏部)
- ・ 既に中期計画を策定している学校をさらに良くするためのガイドラインを作るのか、全くできない学校に中期計画の作成方法を示すためのガイドラインを作るのかが不明確だと感じる。(飯塚)
- ・ 両方が必要であると考え。以前に自己点検評価表のように絶対にやらなければならない項目とやっておいた方が良い項目とに区分していけばそれはできると思う。(五十部)
- ・ 基礎的な項目を列挙することも重要であるが、大学と比較することにより抜けている部分やいらぬ部分を削除し、専門学校独自のガイドラインを作ることに意義がある。(林)

- ・ 専門学校は、都道府県知事認可の学校であるのでその観点を十分に組み込んだガイドラインとするべき。特に地域特性が学校の規模感などがキーとなる。(岡村)
- ・ 私もそれに賛成する。レベル分けしてガイドしていくことは重要。ただ最上位は何をもって評価するのが重要と考える。(林)
- ・ 中期計画の方針といろいろな計画との関係性を明確にしていくことは重要だと思う。(稲永)
- ・ そのあたりに関して、誰が、何をということを明確にして、3 年目の生き残りを目指すということが重要だと考える。(松田)
- ・ いろいろな意見をありがとうございます。今の意見を参考にして、また、いくつか推薦校もありますので、何のために何を聞くのかということを確認化して、進めていきたいと思います。(五十部)
- ・ カテゴリー分けについてはいろいろあると思う。計画と実績の差が大きくなってきた場合に、年間でどのようにチェックするのかとか、チェックの体制はどうあるべきなのか等の計画の変更はどのように行うのか。そのための仕組みはどのように運用するべきなのか等は十分検討することが必要だと考える。(菊田)
- ・ レビューについては、私も関心を持っている。ガイドラインに組み込んでいきたい。(五十部)

====学校関係者評価に関する情報共有

- ・ 学校関係者評価運用ガイドラインについては、文科省事業で検討が行われており、この結果を参考にして私たちの方向性を検討するという事になっていました。この件について、委員として参加している岡村さん、八木さんから情報共有をお願いします。(五十部)
- ・ 学校評価ガイドラインを改正するという事は決定事項(八木)
- ・ 私と岡村委員は分科会の委員として参加している。(八木)
- ・ 大きく変わるところは、中期計画の検討が開始されていることと第3者評価が努力義務となること。(八木)
- ・ 第3者評価を実施した学校については、学校関係者評価は何らかの形で免除するようなことが話し合われている。(八木)
- ・ 学校関係者評価委員会の運営ガイドラインを作ったり、自己点検評価の項目などについては平成 25 年に出された学校評価ガイドラインに例示されており、これがスタンダードになることを予測しているが、大きな変更点などがある場合には、しっかりと対応する必要があると考えている。(八木)
- ・ ガイドラインの改正は小中高で定めている学校評価ではなく、高等教育として大学同等の内容で学校評価をするので、改めて学校評価項目を自己点検評価と同じ形で学校評価、いたるところ外部評価に通じ

るように見直すという考え。(岡村)

・大枠その話で良いと思う。12月に協力者会議が行われ、あと2度ほど評価機構が受託している会合の中で方向性が示されると理解している。(菊田)

=====内部質保証人材関連報告・意見交換

・知識伝達部分については、オンデマンド型の学習が望まれている。聞き直しができるのが大きな理由。グループ演習については出来れば対面で作りたい。それぞれの項目については後日皆様にお配りする。講師養成上座について、どのような能力を要求するのかについては、ファシリテーションができる養成を開発しようと考えている。過去に評価をしたことがある者などが対象になるのではないかと考えている。(五十部)

・内部質保証人材の必要性やあり方については必要だと考える。また、継続してPDCAを回し続けることは難しいので、このしくみを作っていくことがカリキュラムに組み込まれると良いのではないかと考える。(岡村)

・キャリア開発等の分野などで、大学は多くを経験している。カリキュラムを越えた、学校を越えたネットワークの構築が重要である。孤立することが最悪になる。職業教育と学習サービスとは何か違いがあるのか？職業教育の真骨頂部分はしっかりと押さえておくべきだと思う。評価、質保証等の全体の構造や枠組みが組み込まれると良いのではないかと考える。また、評価方法は事実をどのようにつかんでいくのかということの最低のリテラシーは学習するべきだと思う。(稲永)

どのような項目を入れておくべきだとお考えますか(五十部)

・エビデンスの取り方はしっかりと理解するべきだと思う。質を保証するということは、ここを担保することが重要だと思う。教育現場は、アンケートなどをしてサンプル数が少ないので、データの見方等を入れておくことは重要だと考える。(稲永)

・内部質保証人材は、いきなりその立場になるとは考えていない。ステップアップしていくような体系も考えるべきだと思う。今回別事業でSDの研修が参考になると思う。(飯塚)

議題4：今年度事業の成果物とまとめ方向性について【確認と検討】

(五十部)

【確認事項】

・令和6年度に想定している成果物

	(1) 自己点検・評価表および運用ガイドライン 2024 年版 (2) 学校関係者評価委員会運用ガイドライン 2024 年版 (3) 中期計画作成手順書 2024 年版 (4) 内部質保証人材育成講座暫定版 (5) 内部質保証人材育成講座担当講師養成講座暫定版 (6) 成果報告書（令和 6 年度に実施する各種検証やアンケート結果等を掲載） 以上で良いか？ 【検討事項】 ・これら成果物をどのような方向性でまとめていくか？ 参考として ①学校評価ガイドラインの改正の検討・中間報告会(令和 6 年 10 月 21 日開催)について岡村先生、八木先生が参加している。 ② 参考 1：前回までのまとめを資料末に記載している。 ・この件に関しては、情報も出そろっていないので、次回以降に再度検討したい。 議題 5：今後のスケジュール確認（五十部） ・第 4 回委員会議題(11 月 18 日開催決定) ① Google フォームによるアンケート最終報告 ② 訪問ヒアリング調査結果報告 ③①、②を踏まえた、内部質保証人材育成講座および講師養成講座に対する意見集約。「内部質保証人材に求められる資質・能力の整理」も議論する。 ④中期計画策定ガイドラインと学校関係者評価委員会ガイドラインの雛形の提案と意見集約 ↑ この間に、中計策定ガイドライン及び学校関係者評価委員会運用ガイドラインの修正。内部質保証人材育成講座及び講師養成講座の原案開発 ↓ ・第 5 回委員会議題(12 月中旬～1 月初旬、ガイドライン及び講座の開発状況による) ①中計策定ガイドライン及び学校関係者評価委員会運用ガイドラインの修正に対する意見集約 ②内部質保証人材育成講座及び講師養成講座の原案開発に対する意見集約 ↑
--	---

	この間に、修正意見を開発する成果物へ反映 / Slack 上で随時意見集約と修正 ↓ ・第 6 回委員会 ①令和 6 年度最終成果物に対する調整 ②令和 7 年度計画確認 【要調整】 第 5 回事業推進委員会 日程について ・成果物としての各ガイドライン及び講座開発の骨格としての資料が出来る時期との調整 ○第 5 回事業推進委員会日程は、 令和 7 年 1 月 8 日（水）14:00～17:00 福岡・ハイブリット
配布資料	・第 4 回事業推進委員会議題 ・TCE 財団主催講座受講者ヒアリング調査結果（静岡理工科大学、鹿児島医療技術） ・質保証関連アンケート調査結果 ・質保証関連ヒアリング調査結果（中央動物）